

## 『こうもり』の手紙の謎について

応用化学科 1年 内城大貴

(鑑賞ソフト 1980年 ウィーン国立歌劇場でのライブ収録)

演出 オットー・シェンク 指揮 テーオドーア・グシュルバウアー)

オペレッタ『こうもり』で、ロザリンデはいつファルケ博士の手紙を受け取り、「こうもりの復讐」について知ったのだろうか。

考察した結果、博士はアイゼンシュタイン家に来て、ロザリンデが服を取りに上階に行くとき、周りが見えないようこっそり彼女に手紙を手渡し、彼女はボロを取って戻ってくるまでの間にそれを読んだと推定する。

理由として、○まずアデーレに対する態度の変化がある。初めロザリンデはアイゼンシュタインの服役を理由に外出禁止と言っているが、ファルケ博士が帰った後、さっきは気分が悪かったと言い、アデーレに暇を与えた。これはロザリンデが夜会にこっそりと行くため、一人になる必要があったからだと考えられる。

また、<一人になってしまうのね>ではアデーレ、アイゼンシュタインとともにフ、フ、フと踊って、浮かれた様子である。もし、彼女が夜会のことを知らなかったとすると、久しぶりに夫から離れられることを喜んでいられるが、それだけならばアデーレに暇を出す必要はない。むしろ、しつこいアルフレードを追い払うのにはアデーレがいたほうが良いと思われる。つまり、ここで彼女はすでに夜会のことを知っており、そこで夫をからかうことを楽しみにしているのだと考えられる。

さらに、発言にもこのことを示唆していると考えられるものがある。

まず、アイゼンシュタインが支度をしに行った後、「おかしいわ」と言う発言は、彼が身だしなみについて述べているところでキスをするほど（別れ際にはしない）浮かれている様子が想像以上であり、あきれていると考えられる。

次に、その直後の「1人は分別を失い、もう1人は大はしゃぎ、1人が出て行ったら、もう1人とどうしよう」と言う発言では、○あまりに大掛かりな仕返しを画策し、実行したファルケ博士、夜会に行くことに浮かれて、鼻歌交じりに支度をしに行くアイゼンシュタイン、暇を与えるアデーレを順に表し、最後の○「もう1人とどうしよう」と言うのは、ロザリンデが人妻だと知りながらもしつこくつきまとうアルフレードをどうしたら追い払うことができるか思案していると考えられる。

また、アイゼンシュタインとアデーレが出て行った後、◎「男って、自分だ

け楽しんで」と言う発言もアイゼンシュタインが刑務所でなく、夜会に行っていると知っているために出たものだと考えられる。

以上より、自分はロザリンデはファルケ博士がやってきたときに手紙を受け取ったと結論付けた。